



市長からの手紙

88 公園の構想

川越市には、大きな公園の構想として初雁公園、森林公園、伊佐沼公園構想があります。

初雁公園構想は、県立川越高校を移転させ、堀や建物を再築して、江戸時代の川越城の忠実な再現を図ろうとする内容の壮大な構想でした。県立川越高校をはじめ多くの建物の移転が前提で、実現にはかなりの期間と莫大な資金が必要であり、今となっては実現困難な構想でした。そこで、初雁公園構想の見直しを進め、本年2月に審議会から新たな「城址公園」の計画案の答申を頂き、3月に基本計画を策定しました。

まずは本丸御殿の前の市道を少し野球場側に迂回させ、建物の周囲を堀で囲み、昔のお城の雰囲気を感じさせるような整備をする計画で、今年度から設計に着手しています。将来的に初雁球場を移転させ、野球場跡地は駐車場と子ども

もたちの遊び場、市民の憩いの場となる芝生広場にする予定です。

森林公園構想は、南文化会館の周辺の雑木林を生かして、森のさんぽ道や子どもが遊べる広場のある公園を設ける計画です。現在、計画面積約40haのうち計10ha(96,000㎡)の森林を取得済みです。

しかし、計画面積が広大であるため、土地の取得がなかなか進みません。すでに公有地化している森の一部は暫定的に散歩道として活用していますが、市の財政状況や全体の土地取得に要する年月等を考慮し、計画修正の検討を始める考えです。

伊佐沼公園構想は、伊佐沼を中心に沼の東西の水田地帯を公園化しようとする計画ですが、規模が大きく財政上の理由等でこれまで手付かずの状態でした。現在、伊佐沼周辺では、地方創生の事業の一環として、「蔵 in ガルテン川越」の取り組みを進めていますので、公園構想は蔵 in ガルテン川越の事業との関連を考え、見直す予定です。

いずれの構想についても、計画の早期実現を図るため規模等の見直しを進めていく予定です。

川越市長 川合善明

「手話」で話そう 4

障害者福祉課 ☎224-5785

Fax 225-3033

ろう者が、学校や勤務先で、先生や上司の顔をじっと見ている、という話を聞いたことがあります。これは、ろう者の持つ文化(ろう文化)によるところがあります。

例えば、ろう者は、手話で話すときも、相手の口の動きを読み取るときも、話している人から視線を外しません。あいさつをするときも、少し頭を下げますが、視線は相手に向いています。

ほかに、ろう者は席を外すとき、具体的な理由を伝えて離席します。これらは、ろう者は相手と相互に確実な情報のやりとりがないと不安になるということが背景にあります。

このように、ろう文化は、話し方・行動の仕方の特徴があります。

今日から実践！ ミニ手話講座

こんにちは(人と会ったとき)



手を頬の横あたりへ持ち上げ、会釈する

さようなら(人と別れるとき)



持ち上げた手を左右に少し振る

*時間帯に関係なく、人と会ったときには「こんにちは」であいさつするろう者が多いです。また、人と別れるときも、「こんにちは」と同じ表現であいさつするろう者もいます。
*「あいさつ」という手話単語もありますが、多くのろう者は、この表現を使います。